本号の記事

○ 第７０回全国大会（石川大会）概要
○ SCOOP
　第３分科会になにが？
　優雅なランチタイムを！
○ 全国大会会場案内
○ 本部活動報告

2017

協会ニュース　増刊号

白米千枚田（輪島市白米町）
写真提供：石川県観光連盟

平成 29 年 3 月 1 日発行
全国公立高等学校事務職員協会
http://zenjikyo.jimdo.com/

事務局：茨城県立並木中等教育学校
電　話：029-851-1346
住　所：茨城県つくば市並木 4-5-1

第 70 回 全国公立高等学校
事務職員研究大会
（石川大会）

1　期日・会場

（１）全国理事会　平成 29 年 7 月 26 日（水）　　ＡＮＡクラウンプラザホテル金沢

（２）研究大会　　平成 29 年 7 月 27 日（木）～28 日（金）

・全体会　　石川県立音楽堂（2F コンサートホール）

・第１分科会　　〃

・第２分科会　　〃　　（2F 邦楽ホール）

・第３分科会　　〃　　（B1 交流ホール）

2　日程

時刻 / 月日	9 (20)	10	11	12 (30)	13 (30)	14 (40 50)	15 (50)	16 (40)	17 (10 20 30)	会場
7月27日（木）				受付	開会式 表彰式	休憩 / 文部科学省講話	休憩	全体会（記念講演）	休憩 / 総会	石川県立音楽堂
7月28日（金）	受付	分科会（前半）		（休憩）ランチタイムセッション・ミニコンサート♪	分科会（後半）			休憩・移動	閉会式	石川県立音楽堂

♪お弁当を食べながらのランチタイムセッション
　パイプオルガン奏者　黒瀬　恵さんによる「ミニコンサート」を是非ご堪能ください。

第 70 回全国公立高等学校事務職員研究大会　　石川大会実行委員長　　松本　満彦

@2103 石川県ひゃくまんさん#0547

昨年の第６９回徳島大会では、心温まるおもてなしに徳島県事務職員の皆様のお人柄やお心が推し量られ、感無量でした。

石川県からの視察団にも、きめ細かなお気遣いをいただきましたことに、この場をお借りして厚くお礼を申し上げたいと思います。

第７０回研究大会は、平成２９年７月２６日から２８日まで、石川県金沢市で開催されます。前回の石川開催は、昭和４８年でした。当時の研究大会は３泊４日で、３，０００人を超す参加者があったと記録されています。今から４４年前、パソコンもない時代にどのようにまとめ得たのか思い及びません。諸先輩方の並々ならぬ努力の賜物であったと推測されます。今は、当時を知るただ一人の事務長を頼りに、実行委員が一丸となって、来る石川大会に向けて渾身の知恵を絞っています。「ひゃくまんのかがやき発見い～じ石川」をキャッチフレーズに、全国から一人でも多くの方をお迎えし、「石川に来て良かったな」、「金沢に来た甲斐があったな」と思っていただける石川大会にしたいと考えております。

さて、昨今の学校事務職員の職務は広範囲に及び、変化する学校教育の在り方に応じて次々と高度な資質・能力が求められています。また、そうした中で、行革に伴う人員削減や保護者のニーズの多様化による業務の繁忙化も余儀なくされている昨今です。しかし、そうであればこそ、焦らず、腐らず、前向きに進んで行くために、石川に来て、見て、触れて、たくさんの発見を持ち帰っていただきたいと願っています。

白く輝く霊峰「白山」。豊かな水が潤す加賀平野。日本海の大海原に臨む能登半島。そして、加賀百万石の武家文化を今に受け継ぐ城下町金沢。石川の自然と人が創り出したこの土地にしかない伝統文化をまるごとご堪能ください。「兼六園」、「金沢城」、輪島の「朝市」、「千枚田」、土曜日・日曜日と連泊して石川を満喫していただければ幸いです。

全体会（記念講演）「世界に挑むパティシエを育てた石川の文化・自然」（予定）

辻口博啓（ツジグチ ヒロノブ）

クープ･ド･モンドをはじめ世界大会に日本代表として出場し、数々の優勝経験を持つ。サロン･デュ･ショコラ･パリで発表されるショコラ品評会においては、2013年～2015年の3年連続で最高評価を獲得。さらに2015年、国際的なチョコレートの大会「インターナショナルチョコレートアワード世界大会」のチョコレートバー部門で、金賞を受賞。

モンサンクレール（東京･自由が丘）をはじめ、コンセプトの異なる12ブランドを展開。2014年には初の海外店舗「モンサンクレール ソウル」をオープン。素材にこだわり、スイーツで地域振興を行うほか、砂糖不使用のチョコレートなど健康に配慮したスイーツを開発する。

各店舗の製造･運営の他、企業とのコラボレーションやプロデュース、講演や著書出版など積極的に活動。お菓子教室「スーパースイーツスクール 自由が丘校」を主宰する他、後進育成のための「スーパースイーツ製菓専門学校」「スーパースイーツ調理専門学校」（石川県）の校長を務める。

一般社団法人日本スイーツ協会代表理事を務め、スイーツを日本の文化にすべく、「スイーツコンシェルジュ検定」を実施。また、お菓子作りを通して人を育てる「スイーツ育」を提唱する。
2015年3月スタートのNHK朝の連続テレビ小説「まれ」では製菓指導を務める。

石川県観光大使。三重県観光大使。金沢大学非常勤講師。産業能率大学客員教授。
http://www.super-sweets.jp/

第１分科会　学校組織マネジメント　―学校経営への参画―

＜午前の部＞

○　研究発表

（１）歳出事務における予算管理の手法　～はじめての歳出～

群馬県立館林特別支援学校　主任　大澤　亮介
群馬県立西邑楽高等学校　　主事　小林　卓也

歳出事務を行う中で、どのように「予算を管理」するかはとても重要なことです。アンケートの実施により各校担当者の予算管理の手法や現状を把握し、群馬県教育委員会が実施している「裁量予算制度」等を通して、予算を適切に管理する方法について考えました。また、ＰＤＣＡサイクルに基づいた予算管理の考え方、そして目的を意識した予算執行の重要性について研究しました。

（２）若手職員による若手職員研修の企画実施について

兵庫県（調整中）

兵庫県では、毎年新規採用職員が３５名程度採用されており、その養成が課題となっています。協会本部が平成２５年度より初任者を対象に年間４回研修を実施していますが、２年次以降の研修の必要性を強く感じており、その実施が若手職員からも要望されています。ただ、対象人数も多く全県単位ではなかなか実施ができていません。また、各支部もしばらくなかった新規採用が急速に増加したため、そのノウハウがありません。そこで若手職員の研究グループを結成し、研修を企画運営させ、それを協会本部及び各支部で後押しすることとし、平成２８年度にモデルケースとして研修を実施しました。研修実施までの過程における苦労、実施後の反省等、結果のみでなく、その過程を中心に発表することとし、次年度以降も継続した取り組みとなるように考えています。

（３）知事部局からの異動者向け事務スケジュールについて
～協働できる関係と雰囲気の良い事務室づくりをめざして～

富山県立高岡支援学校　　主任　室田　真弓
富山県立中央農業高等学校　主任　赤丸　亜弓
富山県立志貴野高等学校　　主事　大橋　　薫

今後、学校事務採用者の大量退職時代を迎えることから、知事部局から県立学校への転入者や新規採用職員、臨時的任用職員が年々増加することが予想されます。それまで担当したことのない業務を担当することになり、「どの業務をいつまでに進めればいいだろう？」「詳細なマニュアルがあればそれを見ながら業務を進めるのに・・・。」といった声がよく聞かれます。そうした状況を少しでも改善するため「事務スケジュール・年間スケジュール」の作成に取り組みました。

＜午後の部＞

Ⅰ　基調講演

仮　題　　「学校事務の現状について」
～チームとしての学校・教職員のあり方に関する作業部会における検討内容等について～

講　師　　国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官　　藤原 文雄 氏

Ⅱ　パネルディスカッション

仮　題　　「チームとしての学校」における事務職員の役割
～学校運営への参画の現状と課題～

パネリスト　①　国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官　　藤原 文雄
②　石川県立金沢泉丘高等学校　事務長　大西　晃潤
③　富山県立伏木高等学校　副主幹　木下　幸一
④　未定（主任クラスの事務職員）

○　問題提起

事務職員は、行政職員として学校運営事務に専門性を生かし、より広い視点に立って、事務長の指揮監督の下、校長の学校運営を経営面から支え、学校運営チームの一員としての役割を果たすことが期待されている。副校長・教頭と事務長との間で管理運営に関する業務の連携・分担をすすめ、総務や財務事務以外の職務にもこれまで以上の役割を担っていくためには、学校運営事務体制の拡充を図ることが求められている。学校の管理運営が複雑化・多様化していることから管理職としての事務長とともに事務職員がより権限と責任を持って職務に当たっていくことが求められている。

学習指導要領改訂の方向性は、アクティブ・ラーニング視点を取り入れ、学校におけるカリキュラム・マネジメントの実現が重要となってくるが教育内容や教育活動に必要な人的・物的資源等を効果的に組み合わせ、予算を効率的かつ効果的に執行していくため、総務や財務、施設管理等に精通した事務職員が大きな力を発揮することが期待されている。そこで、本全国大会において、「チームとしての学校」の検討過程、事務長及び事務職員の学校運営への参画状況やその実態等について、パネリストによる討論及び意見発表等を行うとともに会場の参加者との意見交換や質疑応答を通じ、事務職員の果たすべき役割を明確化するため、パネルディスカッションを行うものである。

○　討議の３本柱

１　校長のマネジメント体制を支える事務機能の強化
２　職務内容の明確化及び研修体制の整備
３　学校運営上の権限と責任体制拡充方策の検討

第２分科会　業務の改善と効率化　―実践と提案―

＜午前の部＞

○　研究発表

（１）個人情報を含む文書の発送事務手続きの改善方策
～保護者と事務室の良好なコミュニケーション構築に向けて～

三重県（調整中）

就学支援金の文書発送業務において発生した２件の誤発送事案をきっかけに、「高等学校等就学支援金の文書発送手続きに関するワーキング」を立ち上げ、就学支援金業務の効率化とチェック体制について検討を行いました。その中で、授業料等未納者督促業務や生徒証明業務など個人情報を扱う他の業務においても共通のリスクがある点に気づき、「文書発送手続きに関する改善方策」を作成するとともに「統一校務システム」の活用や、指定金融機関と連携した研修会の開催など、不適切な事務処理を発生させないような試行・取り組みを発表します。

（２）ＡＬＴ事務の実情と実務について

北海道中標津高等学校　主任主事　　橋詰　美穂
北海道根室高等学校　　事務主任　　藤原　桂子

外国語指導助手(ALT)配置校の条例規則上及びその他の苦労に焦点を当て、ALT 配置校へのアンケート調査によりその実情の分析を行いました。また、過去に北海道で発表された先行研究を参考に、現在行われている事務処理をまとめ、実務の手引きとなるようにまとめた研究となっています。

（３）就学支援金・奨学給付金　Ｔ．Ｅ．Ｘ．Ｔ
～この机がいつ片付くかは分からない。でも、その処理の仕方だけはわかってる！！！～

茨城県立結城特別支援学校　　係長　　松本　敏秀
茨城県立水海道第一高等学校　係長　　小口　恵美

平成２６年４月から公立高等学校授業料無償制は「高等学校等就学支援金」及び「高等学校等奨学給付金」の制度となりましたが、導入時から保護者・教職員には周知徹底が不十分で、担当事務職員には大きな負担増となりました。そこで、就学支援金担当だけではなく、他の事務職員でもチェックしやすい初歩的なマニュアル作りを心がけ、支援金関係事務の年間スケジュールから各種申請書や関係書類の記入例、チェックポイント等を、ぱっと見ただけでチェックすべきところが一目で分かる手引書にまとめました。

＜午後の部＞

Ⅰ　基調講演

仮　題　　「自己能力の開発・活用　　～　能力評価が目指すもの　～　」
講　師　　人材育成アドバイザー　　小堀 喜康 氏

Ⅱ　パネルディスカッション

テーマ　　「職場を活性化させる自己能力の開発・活用」
パネリスト　①　人材育成アドバイザー　　小堀 喜康
　　②　未定（学校事務職員）
　　③　東振グループ（東振精機・東振テクニカル）　秦　恵介

○　問題提起

「地方公務員法の一部を改正する法律」が平成 28 年 4 月施行され、全国の自治体に、能力および実績に基づく人事管理を行うための人事評価の実施（以下、「新しい評価制度」という。）が義務付けられた。この「新しい評価制度」は、地方分権の進展や住民ニーズの高度・多様化、財政状況・職員数減少などにより、困難な課題を解決する能力と高い業績を挙げることがこれまで以上に求められるようになったことを背景に、制度を活用してより高い能力を持った公務員の育成、被評価者の主体的な能力開発や能力の活用による職場の活性化を実現するためにある。また、制度を人材育成に繋がる運用とすることも重要とされている。

しかしながら、被評価者である事務職員個々の認識はどうだろう。自己能力育成の重要性・必要性を感じつつも、「任用、給与、分限その他の人事管理の基礎として活用する制度」と偏重している事務職員も多いのではないだろうか。そこで、被評価者の視点に立ち「新しい評価制度」を見ていきたいと思う。人事評価は「能力評価」と「業績評価」で構成されている。だが、今回は、「能力評価」に重点を置き、新しい人事評価制度が目指す、「職場を活性化させる自己能力の開発・活用能力」について講義・ディスカッションにより被評価者の理解を深める考察をしていく。

まず、基調講演で新しい評価制度導入の経緯を交え、能力開発・活用の重要性を講義いただく。次に、パネルディスカッションでは、基調講演講師とともに、事務職員及び人事評価で人材育成を実践している企業の人事担当者と、能力開発に取り組む意識を向上させる方策、自己能力を意欲的に業務に反映させ職場の活性化を図る方策などを討議し、自己能力の開発・活用の重要性への認識を高めるとともに、能力評価の効果的運用による人材育成及び職場の活性化への効果を探る。なお、討議は会場との問答も取り入れる会場参加型とする。

○　討議の３本柱

１　自己能力の発見・伸長・活用における課題及び対策
２　被評価者として能力評価に期待する効果、実現のための方策
３　能力評価による職場活性化への課題及び対策

第３分科会　今日的課題への提言　―多様な視点からの学校づくりを考える―

＜午前の部＞

○　研究発表

（１）台風から学校を守ろう！！

沖縄県立読谷高等学校　事務主事　玉木　洋
沖縄県立森川特別支援学校　主任　伊良部　教子
沖縄県立泡瀬特別支援学校　事務主事　亀谷　麻衣

台風による被害が全国的に増加傾向にあるなかで、台風からいかに学校を守るのか、学校事務職員の皆様は頭を悩ませていると思います。これまでの沖縄県の台風に対する対策や被害等をアンケート調査することにより、よりよい台風対策を講じることができないか研究しました。

（２）「教育委員会通知等ＤＢ」の構築について

岩手県立前沢高等学校　主事　加藤　悠太
岩手県立金ケ崎高等学校　主事　中澤　巧

各学校に備え付けの岩手県例規集等の他、本庁各課から各学校に発出されている「取扱い通知」等が日常の業務を確実に進めるうえで必要不可欠であると考え、通知の集約（データベース化）による業務の円滑化を目的に、岩手県のグループウエア内のデータベースコンテンツ「Ｒ＠ｂｉｔＦｌｏｗ」を活用して「教育委員会通知等ＤＢ」を構築しました。

本研究は、ＤＢ構築に至る過程と構築後の運用や管理上の課題等について発表します。

（３）災害発生時の、事務職員の初期対応について

徳島県（調整中）

徳島県では、各学校に防災計画が作成されていますが、この計画は事務職員がすべき行動や役割についてはあまり明記されていません。そこで、被災時に事務職員はなにをすべきかを研究テーマとし、生徒に関わるものは教員を中心に、その他の情報は事務室が中心になり情報収集作業を行い、地元市町村に避難所運営を引き渡すまでを「災害発生時の、事務職員の初期対応」と位置付けて研究を行いました。

＜午後の部＞

Ⅰ　ケース・スタディ

討議テーマ　「災害時における事務職員の役割について」（グループ討議）
指導助言者　全国公立高等学校事務職員協会

○　問題提起

平成 23 年に発生した東日本大震災以降も熊本地震や鳥取中部地震、台風による豪雨など各地で大規模な災害が発生している。

全国研究大会でも危機意識の高まりから今後予想される首都直下地震や南海トラフ地震、ゲリラ豪雨等災害発生時の避難所、備蓄方法及び生徒への対応についての発表がされている。

学校そのものが被災してしまう場合もあるが、地域コミュニティの中心であり比較的広い土地・建物を有している学校は、避難所等もしくは復旧拠点としての役割を大きく期待されており、実際、災害時に避難所等として利用されるケースは少なくない。

そこで、事務職員として学校周辺に起こりうる災害に対して防災知識を身につけ、災害時の組織体制や、地域及び地元自治体との連携をどう構築していくのかなど、危機管理意識と災害対応能力を高めるための動機付けを図る。さらに、勤務する学校の現状を的確に把握し、津波の想定される地域なのか、避難者の受入は可能なのかなど、注意すべき問題点とそれぞれの学校の特性にあった役割をグループ討議の中で検証する。

また、災害時においては、事務職員が施設の管理者として、地域や地元自治体からの様々な要望への対応や、避難所の運営に係る協力業務を行わざるを得ないことが予想される。このことから、災害時に想定される要望に対するワークショップの実施や、実際に避難所運営委員会の模擬会議の様子を体験することにより、事務職員がとるべき初期行動や学校再開へ向けての復旧のあり方を学び、不測の事態に迅速・的確に対応できる人材の育成を図る。

なお、討議は「アクティブ・ラーニング」の手法を取り入れ、参加者は「ケース・スタディ」をとおして設定されている課題について常に可視化を念頭に意見交換を行い、共有した事例の課題等を検証する。

○　討議の３本柱

１　災害時における事務職員がとるべき初期行動を考える
２　職場の立地条件による課題や円滑な地域との連携を検証する
３　災害復旧時における復旧拠点のあり方をグループ討議する

SCOOP

第３分科会になにが？

石川大会第３分科会では「ケース・スタディ」を行います

「アクティブ・ラーニング」の手法を取り入れ、設定された「ケース」の中に示された課題についてグループで討議します。簡単なワークショップも行います。

討議のテーマは、「災害時における事務職員の役割について」です。示された課題に対して「自分なら、どう考え、どう行動するか？」を、テーマに沿って考えていきます。

「ケース」はフィクションですが、参加される皆さん自身に起こった現実のこととして抽象的なアイディアではなく、具体的な行動を考え意見交換をします。

また、これからの教育現場では、「アクティブ・ラーニング」として様々な場面で可視化が進められています。第３分科会の「ケース・スタディ」では、模造紙・ふせん紙などを活用した「アクティブ・ラーニング」で、有意義な分科会となるよう準備を進めています。

全国から集まる皆さんと意見交換を行える貴重な機会です。この機会を「ケース・スタディ」でさらに有意義なものにしませんか？

多くの皆さんの参加をお待ちしています。

H28.10.21　第２回事務職員研修
ケース・スタディの様子（つくば市）

優雅なランチタイムを！

ランチタイムセッション♪ミニコンサート
パイプオルガン演奏者

黒瀬 恵（くろせ めぐみ）　氏

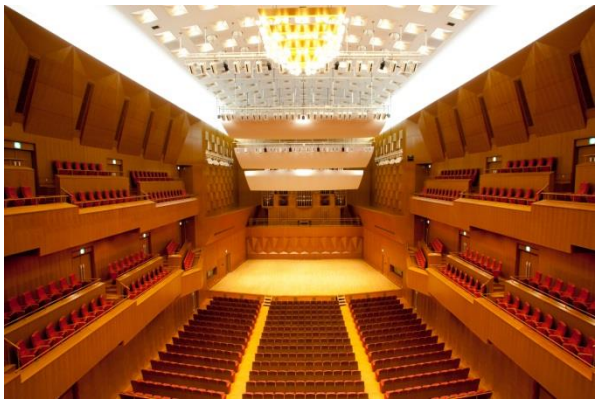
金沢市出身。武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。ザルツブルクへ留学。在学中より国内・ヨーロッパ・韓国でのオルガン講習会で研鑽を積む。

現在金沢を拠点に、石川県立音楽堂のパイプオルガン教育プログラム、オーケストラ・アンサンブル金沢との共演、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭参加、ザルツブルクのフランツィスカーナー教会でのリサイタル、室内楽、通奏低音等でも活躍。NHK-FM「まろの SP 日記」出演。オルガンを谷内江潤子、志村拓生、ベルンハルト・グフレラー、ダニエル・モレの各氏に師事。日本基督教団金沢教会オルガニスト。日本オルガニスト協会会員。

全国大会会場案内　石川県立音楽堂

外観

第１分科会場（2F コンサートホール）



第２分科会場（2F 邦楽ホール）

第３分科会場（B1 交流ホール）

※コンサートホール、邦楽ホールの画像は、石川県立音楽堂ＨＰよりお借りしています。

※交流ホールの画像は、北陸３県情報ブログ「i 北陸」よりお借りしています。

本部活動報告

●常任理事会（去来荘）

１月２０日　　第２回石川大会合同打ち合わせについて
　　７０周年記念式典等について

●第２回石川大会合同打ち合わせ会（石川県立音楽堂　他）

２月７日～８日　会場視察
　　石川大会合同打ち合わせ

<<訃報>>

副会長の小澤 京さんが１月 14 日ご逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

編集後記

今回の増刊号は、分科会の概要についてお知らせしています。研究発表のコメントも記載しましたので、大会参加希望者が分科会を選択する際の参考になれば幸いです。

開催案内等は協会ＨＰに掲載しました。大会日程・分科会構成表並びに参加申込書等をダウンロードできます。次回は大会特集号を７月に発行する予定です。

石川県といえば10年位前に曽々木海岸の民宿でフランスからの旅人と夕飯を食べたことを思い出しました。お互いに片言の英語だったので、妙に話が通じたことが良い思い出です。（菊地）

◎「協会ニュース」についてのお問い合わせ、ご連絡は次の広報部編集担当までお願いします。

群馬県立太田女子高等学校／菊地

TEL:　0276-22-6651

FAX:　0276-22-4701

mail:　kiku-ta@pref.gunma.lg.jp

東京都立松原高等学校／橋村

TEL:　03-3303-5381

FAX:　03-3304-3062

mail:　Ikumi_Hashimura@member.metro.tokyo.jp

千葉県立松戸特別支援学校／川島

TEL:　047-388-2128

FAX:　047-388-4781

mail:　t.kwshm10@pref.chiba.lg.jp